29　猿置物　高村光雲

大正十二年（一九二三）　木彫
二八・〇×三九・〇×四一・〇　一点

猿回しの猿が御幣と鈴を持ち、能楽の祝言曲である三番叟を舞う姿をとらえた作品。サクラ材の一木造りで、楕円形の基部側面に「高村光雲刻」の刻銘がある。六脚の桑材の置物台をともなう。大正十一年六月の雍仁親王（秩父宮）成年式に際して、同親王より大正天皇貞明皇后に献上された品で、制作は宮内省より東京美術学校へ依嘱され、制作を同校教授の高村光雲（一八五二～一九三四）が担当した。完成は翌年三月のことである。観察に基づく写実が極められており、優れた彫技により細やかな仕上げがされている。

光雲は仏師のもとで学び、その伝統的な木彫技術によって、近代彫刻に大きな足跡を残した彫刻家である。明治二十年明治宮殿造営の折に室内装飾の彫刻に関わり、同二十二年の日本美術協会美術展覧会で《矮鶏置物》が買い上げられたことで、その名が広く知られるようになった。同年から東京美術学校で教鞭をとり、翌年には帝室技芸員となった。なお、本作のほか、光雲は皇室の御慶事に際して宮内省から東京美術学校へ依嘱された作品を手がけており、大正八年の皇太子（昭和天皇）成年式に際して《鹿置物》（当館蔵）と《鶏置物》（所在不明）を制作、大正十三年の皇太子御結婚に際しては《松樹鷹置物》（当館蔵）と、いずれも光雲が得意とした動物を主題としている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生——作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録No. 72

編集　宮内庁三の丸尚蔵館

制作　株式会社 東京美術

翻訳　黒川廣子

発行　宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan